



ジュゴン Vol.106

ちゃんぷるニュース

SDCC 2019. 9. 24
Save the Dugong Campaign Center

CONTENTS

- 2/3 情勢・二つの訴訟と国際世論
- 米国議会への働きかけ
- 4/5 各地の取り組み
- 県への後押し
- 6/7 イルカコンサート
- わんさか通信★ジュゴンのわ
- コラムー「王」のいない世界



豊さんからヒミコの話を知り初めて聴いたのは 2008 年スペイン・バルセロナ、街角で夕食をしている時でした。その時の IUCN（国際自然保護連合）国際会議で沖縄ジュゴン保護の決議が採択されたのでした。豊さんのいうヒミコのことを理解できたわけではなかったけれどなぜか心惹かれていました。同じ年、初めて目にした大浦湾のアオサンゴの海にまさしく竜宮城だと心を奪われ、この海を埋め立てるなんてできるわけがないと思いつけていました。

なのに、海への土砂投入は止まらず、ジュゴンは消えてしまいました。辺野古だけでなく、高江や伊江島も、また南西諸島の島々には自衛隊配備が強行され、日本は軍事国家へまっしぐらの状況です。ほんとに気が滅入ってしまいます。

ジュゴン保護と平和の世直し

しかし、へこんでいるわけにはいきません。パワーアップしなければ！『「琉球文明」の発見』（海勢頭豊著）を読み、バルセロナで聴いたことが少し分かった気がしています。ジュゴンは信仰するにたる神獣。ジュゴンを平和の神・航海安全の神・豊穡の神として敬い、琉球は争わないで平和に生きる非武の島でした。遠い昔、ヒミコは琉球で修業をし、龍宮神（ジュゴン）信仰の力で戦乱の世であったヤマトの世直しをして平和世を創ったといひます。今こそ、日本の世直しが重要です。

龍宮神信仰（平和思想）を復活させ、平和国家を創るにはどうしたらいいのかと問うと、豊さんは「憲法九条を守らないといけない」と言われた。よし！沖縄・辺野古に関わり、様々な取り組みをしている私たちは誰もがヒミコだと思います。辺野古へ通い、座り込み、平和に生きるための勇気と知恵を学び、優しさと強さを学びながら、日本の世直しをしているのですから。

辺野古漁港の先にある祠には龍宮神が祀ってあります。辺野古新基地建設を止め、守られた清らかな海にジュゴンがまた現れたとき、龍宮神信仰は復活しているのでしょうか。

命どう宝

ジュゴン（龍宮神）に護られ、日本の世直しががんばりましょう。

（関西 池側恵美子）

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



辺野古の龍宮神が祀られている祠で祈る（本面）



関西の写真展の宣伝で商店街を練り歩き

9/21-22 おきなわ写真展
商店街内(天三)で開催



情勢 事務局から

軟弱地盤のくい打ち反対！ 関与取り消し訴訟の勝利を！

☆くい打ち工事強行がねらい☆

政府は9月6日、辺野古・大浦湾の軟弱地盤改良工事の技術検討会（清宮委員長は旧運輸省出身）を発足させました。この「技術検討会」は、沖縄防衛局が今年1月に提出した「地盤に係る設計・施工の検討結果報告書」を、沖縄県が「海面下90m、マヨネーズ状といわれる軟弱地盤78haに、90隻以上の作業船で、杭7.7万本を打ち込むなど、環境影響の検討が不十分」（7月17日）と批判したことに對して発足したものです。沖縄県と協議せず、一方的に工事を進める姿勢が明らかです。「第1回検討会では設計に関する地質調査などは『妥当』と評価された」と報道しています（9月6日共同通信）。だから、来年初めにも沖縄防衛局は沖縄県に設計変更を申請し、県と協議をせず「技術検討会」の答申を盾に杭打ち工事を強行し、裁判で決着するとの思惑が見えてきます。

☆二つの訴訟☆

沖縄県はすでに二つの裁判を進めています。一つは、7月に高裁那覇支部に提訴した裁判で、私人しか使えない行政不服審査請求を沖縄防衛局が悪用し、国土交通大臣が「その申請」を受け入れたことについて、違法か否かを争います（略称：関与取り消し訴訟）。9月18日が第1回口頭弁論です。もう一つは、8月7日に那覇地裁に提訴したもので、国交大臣が「沖縄県の埋め立て承認撤回」を取り消した判決について、違法か否かを争います。「埋め立て承認撤回の適法性」が審理の対象になります。これらは並行して進められますが、数か月で結審見込みの「関与取り消し訴訟」に勝利すると、埋め立て工事中止が実現します。関与取り消し訴訟を支援しましょう。

☆国際世論と結んで☆

新基地建設の埋め立て工事は進んでいません。沖縄防衛局の「軟弱地盤対策」は5年を要するといわれ、新基地建設の工期は当初の5年から13年かかるかと沖縄県は試算しています。一方、米国連邦議会では、在沖米海兵隊などインド・太平洋地域での米軍分散配置の遅れが議論となり、国防総省が追及されています。辺野古新基地建設に日米両政府は焦っているのです。国際自然保護連合(IUCN)・サイレニアン・グループは9月下旬に来日し、沖縄ジュゴンの保護計画について議論します。また、米国連邦裁判所でのジュゴン訴訟控訴審の公開審理にむけて、米国生物多様性センターと連携して政府機関や議員に「建設工事の目的が立っていない」、「工事は沖縄ジュゴンの死亡や行方不明など環境に大きな影響を与えている」と働きかけを強めています。新基地建設工事の中止、ジュゴンを守れ！の大騒ぎキャンペーンを広げましょう。



図：9/6 琉球新報

大地震に対する検討なし（9/6 琉球新報）

「防衛省が軟弱地盤の改良工事について今年1月にまとめた報告書で、耐震性に関する検討で大規模な地震を想定していなかったことが分かった。（中略）防衛省は「安定性は確保できている」とするが、辺野古移設に反対する市民からは「検討をやり直すべきだ」との声が上がっている。」



土砂搬出船の出港を阻止するカヌー隊の仲間
(8/28 撮影)





上院国防権限法案S1255を支持する声明 33市民団体から連邦議会に提出



2019年09月13日、SDCCを含む、沖縄・日本・米国の33市民団体は、米国連邦議会上院・下院の軍事委員会に「2020年度国防権限法上院法案1790の1255項を支持する声明」を提出しました。今回の声明とその提出は、辺野古新基地建設を止める取組みに重要な方向性を示すものです。

1255 項とは

1255 項「インド・太平洋地域における米軍分散配置の報告」は、米海兵隊の沖縄からのグアム移転を含む「インド・太平洋地域」における米軍の「分散配置（distribution lay-down）」の再検証（review）を国防長官に求めるものです。さらに、再検証の結果必要と認められるならば、「『米軍分散配置』に対して、アラスカ、ハワイ、米本国、日本、オセアニアにおける基地の代替地（alternative locations）などを示した修正の提案（recommendations for revisions）の詳細を報告する」ことが要求されています。

このような内容の法案項目が示されたのはここ数年では初めてです。それゆえ、1255 項の採択が辺野古新基地建設の再検証に繋がる可能性を期待できると言えます。

声明内容

声明では、辺野古新基地建設は、沖縄への更なる基地負担であるばかりでなく、沖縄の民主主義の声や懸念に対する日本政府の軽視と圧政的態度を象徴するものであると訴えています。

また 1255 項で示された検証項目に言及し、なぜ私たちが支持するのかを、「沖縄の民主主義の声」「環境保全に重要な場所」「軟弱地盤に係る工事の問題」「埋立て承認を巡る訴訟」「国際社会とアジア・太平洋地域の国々の目」の項目で議論しています。これらの議論は、市民社会が沖縄県や県議会と協力しながら取り組んできた成果の上に成り立つものです。例えば、SDCCが取組できたジュゴンをめぐるIUCN 勧告の動きや、やんばるの森の世界自然遺産登録の取組みから得た情報は、議論の重要な根拠になっています。

さらに声明では、一次資料や最新の報道情報を脚注で示しており、軍事委員会が検証できるようにしています。その中には、SDCCなどが沖縄県に提案した英訳が実現した県の「埋立て承認撤回の文書」（英訳）も含まれています。

連名団体

連名参加の呼びかけ期間は僅か4日でしたが、米国の市民団体も加わり、合計33の多様な市民団体による文書の提出となりました。各々の団体には、平和、人権、環境を尊重し行動する多くのメンバーがあり、メンバーの賛同により声明が提出された意義は大きいと言えます。

例えば、連名を募るために、辺野古ブルーなどのメンバーと直接会い声明内容を説明しましたが、それが情報交換と連帯を深める機会にもなりました。また SDCC が関わってきたハワイ在住の Pete Doktor さんが所属する米国の団体も連名に加わり、国際連帯の継続を確認しました。また、ワシントン DC 近郊に住んでいる Akko Cacaji さんは、声明を軍事委員会のスタッフに手渡してくれており「ワシントン DC は遠い存在ではない」と私たちに認識させてくれました。

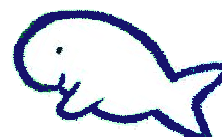
この多様性と「米国の近さ」を体現する市民社会のネットワークが、辺野古新基地建設を止める今後の取組みにおいて更に重要な役割を果たしていくはずで。

声明提出の意義と今後の展開

今回の声明提出は、辺野古新基地建設問題の解決のために、沖縄や日本の市民社会が、米国の制度に積極的に関わることの重要性を認識し、明確な議論の提示など、きちんと関わることができることを連邦議会に示したと言えます。三権分立が明確な形で存在する米国においては、立法を通して問題解決を目指す場合、法案の策定、法案の採択、法の履行の全ての過程において、市民社会を含むステークホルダーが積極的に関わっています。言い換えれば、関わらないと、問題解決の意思がないと理解されてしまうのです。その意味でも、法案採択に向けて連邦議会で審議中のこのタイミングで、声明が提出されたことは意義があったと言えます。

1255 項を含む国防権限法案は、大幅な修正はなく、議会を通過し、大統領の承認を得るだろうと予想されています。今後大切なことは、1255 項に従い国防長官が行う「再検証」に、市民社会がどのように関わられるかということです。今回の声明で示した5つの議論を更に詳細に国防総省に説明していく必要があります。その際、市民社会の取組みの成果である米国連邦政府「海洋哺乳類委員会」や「国家歴史諮問委員会」との関係を活かしていくことも大切になります。さらには、控訴審にある「ジュゴン訴訟」をどのように「再検証」と結びつけていけるかも重要となります。2020年度国防権限法が施行される2019年10月から2020年9月のこの一年は、まさに勝負の年になります。協力して頑張っていきましょう。

(国際担当 吉川秀樹)



沖 縄

炎天下、懸命の土砂海上搬出阻止・抗議行動を展開 — 琉球セメント安和棧橋・本部塩川港の闘い —

「ふるさとの土は平和のために使いたい」「琉球セメントは基地建設に加担するな」の横断幕が連日、本部町塩川港と琉球セメント安和棧橋前に掲げられる。

本部町島ぐるみ会議では地元の土が基地建設に使われ、地元の港から搬出されるのを許すわけにはいかない。そして辺野古ゲート前、海上での阻止行動に加え、埋め立て土砂の出口で水道の蛇口を絞るような取り組みをしようと、この間も連日炎天下での行動を展開している。

6月以降、安和棧橋での行動はオール沖縄現地闘争部会の確認の下、曜日ごとに各地域島ぐるみ、グループ等担当を決め行動している。棧橋構内へのダンプの入り口でのデモ行進は、国道交差点を右折して土砂を搬入するダンプを遅らせ、出口での行動は土砂積み込みに帰るダンプを遅らせる。また、国道で一般車両に混ざって行動するドライブメンバーはダンプの無理な右折や出口から国道への割り込みをさせない取り組みだ。

そして、現在状況に応じて安和棧橋で行動することとなった辺野古カヌーチームは、土砂を積み込み離岸しようとする運搬船を止める。制限水域でもなく誰でも自由に往来可能な海上、しかし海上保安庁は「海猿」を出動させ次の運搬船が着岸するまで拘束する。それでも1時間から2時間離岸を遅らせることができる。

3者の行動がかみ合ったとき、確実に大浦湾に向かう運搬船を減らし遅らせている。

一方、7月以降、塩川港からの台船や運搬船での土砂搬出がほぼ毎日となり本部島ぐるみメンバーの重点は塩川港へ。午前6時45分港のゲートが開く前に100名に及ぶテ

イケイ警備員が赤いネットをもって荷捌き地エリアを囲い込み仮設バリケードの設置作業を進める。岸壁にはすでに台船が着岸し、7時の開門と同時に並行して20数台のダンプが積み込みを始める。国道を挟んで目の前の琉球セメント安和鉱山からピストンで運んでくる。

荷捌き地への出入り口での行動で積み込み速度を抑えることはできるが、バリケードの一部を外して自由に新たな出入り口を作りダンプを誘導する。我々の人数が足らなくなる。他地域の島ぐるみや市民が塩川に駆けつけてくれると2時間近くダンプを止めるときもある。県警も道交法が適用されず県民が自由に入れる港では簡単には規制、拘束できないのだ。

現在、塩川港からの搬出は1日につきダンプ約170台分（土量にして約1000t）を積み込む台船が1~2隻。1回の搬出に係る経費は莫大なものになる。税金の無駄遣いも甚だしい。
(沖縄 高垣喜三)



本部塩川港での土砂搬出阻止行動

東 京

官邸前、防衛省前で「土砂投入やめろ！」

昨年、12月14日辺野古への土砂投入が始まってから、官邸前では「この暴挙を決して許すわけにはいかない」と、沖縄出身の女性たちが土砂投入が行われた日は毎日、スタンディングを続けています。雨の日、雪の日、酷暑の夏も琉球民謡を流しながら、辺野古の海の写真、サンゴやジュゴンの写真などを貼り、路上写真展の雰囲気でお官邸前を訪れる人たちにインパクトを与えています。

東京では、「沖縄への機動隊派遣は違法！」の裁判も行われています。東京地裁の一番大きい法廷で行われ、毎回、傍聴券を求めて多くの人々が並びます。抽選で傍聴券を得た人たちが裁判の後押しをしています。8月27日、結審でした。12月16日に判決が出ます。それまで、裁判官に向けて、正当な判決が出るようにハガキを出すなどの活動が続けられます。

毎月第一月曜日は、防衛省前で辺野古新基地阻止の抗議行動が続けられています。各団体や個人の発言、現地からの電話報告を受けたりするほかに、防衛省や政府への抗議

文を読み上げて、直接防衛省職員に抗議文を手渡す貴重な場でもあります。9月の要請文は、SDOC が担当しました。

「土砂投入やめろ」と声を挙げ、闘いの歌を歌いながら抗議しています。

全国各地の様々な持続する力が、きっと辺野古新基地阻止を勝ち取るでしょう！
(首都圏 宮城詔子)



首相官邸前でのスタンディング

**Stop! 辺野古新基地建設！
大阪アクション5周年**

牛島貞満さんの講演「沖縄戦から見た辺野古の今」

牛島貞満さんは、沖縄戦を指揮した沖縄第32軍司令官牛島満中將のお孫さんです。実家で小さいころから聞かされていた「立派なおじいちゃん」に、しだいに疑問を持つようになり、沖縄で祖父の足跡を追うようになったそうです。

沖縄戦での住民の犠牲は6月に集中しています。それは、米軍が首里の司令部に迫ったとき、牛島司令官が下した「南部に撤退して戦う」という作戦により、軍隊と住民が入り混じったためであると、牛島さんは分析します。首里でそのまま戦っていたら犠牲者数はずっと少なかったのではないかと。また、牛島司令官が「最後まで敢闘し、悠久の大義に生くべし」との命令を出し、自決したことで、戦闘は長引き、9月7日の降伏調印式まで続きました。

沖縄戦の教訓は、軍隊は住民を守らないこと。辺野古では米軍基地が、南西諸島では自衛隊基地の配備が進められていますが、軍隊の本質は自衛隊になっても変わりません。自衛隊の任務は敵と戦うこと。住民保護は自治体の長の責任であると今の法律にも明記してあるそうです。

聞き取りや調査を積み重ねてこられた牛島さんのお話は、具体的にとてもわかりやすかったです。沖縄戦の記憶が風化する中、多くの人に牛島さんのお話を聞いてほしいと思いました。
(関西 山根富貴子)



講演する牛島 貞満さん



**ZENKO IN 東京 2019
分科会報告**

「沖縄県は市民運動の激励を！」

7月28日に全交・分科会「沖縄県は市民運動の激励を！」を持ちました。参加者は17人。海勢頭共同代表から「安倍政権を倒し、絶対平和の心を取り戻そう」とのあいさつをふまえて議論を始めました。安和棧橋、本部塩川港や辺野古ゲート前の闘いで、なかなか進まない土砂投入に焦る政府・防衛省の動きや、国防総省、米国連邦議会の困惑。沖縄ジュゴンを守れの大さわぎキャンペーンで国際自然保護連合(IUCN)の来日が実現することになったなどの動きを確認しました。しかし、埋め立て承認を撤回したが、地方自治を無視する安倍内閣の工事強行に対して、沖縄県と現地の闘いが結びついていない課題をどう克服するか議論になりました。

琉球セメント・安和棧橋の目的外使用や本部塩川港からの埋め立て土砂搬出を県はなぜ認めるのか、デニー知事の撤回の方針を県がなぜ努力しないのか？など活発な議論が繰り広げられました。

基調では、「沖縄県は市民運動を激励すべき」と、

①ジュゴン訴訟の公開審理に向けて国防総省に協議の申し入れを再度行うことで、国防総省が地元とのコミュニケーションを図っていない証拠にすること②IUCNの来日時に、環境省とともにジュゴン保護のアクションプランを作成すること、③第2の撤回を準備すること。そして、10月下旬に沖縄県交渉を、11月下旬に政府交渉準備すること。ジュゴンを守れ！大騒ぎキャンペーンをさらに広げることなどを確認しました。
(事務局 蛭川義章)



分科会であいさつする海勢頭豊 共同代表

報告

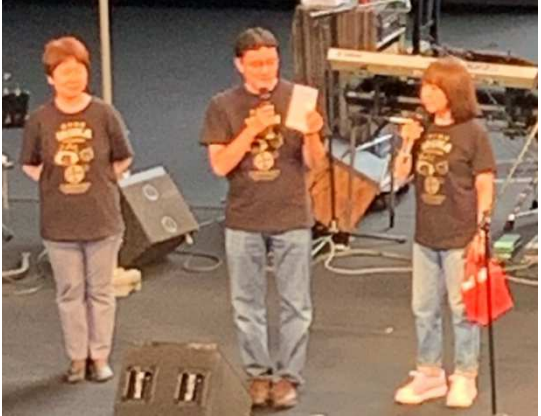
15回イルカコンサートに参加して

7月20日、河口湖のステラホールで行われた「イルカ with Friends Vol.15」にブース参加してきました。ステラホールは、すり鉢状の東屋形式の野外ホールです。この日は雨混じりのお天気だったので暑くなくこちよい風が会場に流れていました。ホールからは富士山が望めます。音楽を聴きながら、富士山が見られる・・・なんて贅沢な時間でしょうか。

さて、このイベントも今年で15周年。イルカさんがIUCNの親善大使になってからのイベントです。光陰矢の如し・・・早いものです。イルカさんと親交のあるアーティストが毎年代わる代わる参加する音楽イベントで今年は、太田裕美さんと海援隊、それに地元の和太鼓とコーラスグループが花を添えていました。公演中にはIUCNのことをもっと知ってもらうためのコーナーもあったか、何も言わなくてもブースに寄付をしてくれる人が多くて参加者の意識も高い方が多いなという印象をもちました。

来年は、IUCN世界会議がフランスのマルセイユで行われます。それに向けてのお話はありませんでしたが、私たちSDCCもマルセイユに向けて行動を起こして行く時期になってきています。今は考えは決まっておりませんが、ちゃんぶるニュースでご報告するときには皆様のお力を貸してくださいね！ (関西 上田千鶴)

IUCNのことを紹介する
イルカさん 右



ジュゴンちゃんもブースでパチリ！

シリーズ じゅごんの里ツアーで学ぶ (その1)



子供、若者の尊厳を大切にできる地域社会を ～ 赤嶺和伸さんと「そいそいハウス」～



宜野湾市在住の赤嶺和伸さん。赤嶺さんの自宅は普天間基地の北側のフェンスに接しています。ツアーの1日目、赤嶺さんの自宅をまず訪問し、屋上で普天間基地の概要と情勢を説明していただきます。

「普天間基地は、今年の2月28日までに運用停止の約束だった。しかし米軍は返還する気などさらさらない」お話の間も、オスプレイが頭上を通過していきます。赤嶺さんは2012年秋のオスプレイ普天間基地配備と訓練の開始以来、毎朝、普天間基地野嵩ゲート前で、仲間と抗議行動を続けています。

さらに赤嶺さんは、仲間と2016年5月「普天間居場所づくりプロジェクト」をたちあげ、子供たちの居場所「そいそいハウス」をオープンしました。

そいそいハウススタッフの森さんは、「沖縄では高校を卒業し、本土の大学に行かず地元に残る若者たちの多くは、建設関係や性風俗産業など不安定雇用の下で働く」「若者の不安定な状態があって、その子供たちも貧困の連鎖に引き込まれる」と語ります。

森さんからは『ヤンキーと地元』(打越正行)『裸足で逃げる沖縄の夜の街の少女たち』(上間陽子)というルポを薦



自宅屋上で説明をする赤嶺さん(右)



そいそいハウスの森さん

められました。貧困ゆえの暴力、地域の先輩、後輩を中心にした若者の人間関係。建設業、性風俗業を中心とした若者の過酷な生活と労働の実態が記されています。子供、若者の尊厳を大切にできる地域社会をつくることと、基地撤去は同じ問題だと、赤嶺さんと「そいそいハウス」の取り組みは教えています。(関西 松島洋介)

「王」のいない世界 - ~ころむ・ころム~

『琉球文明』の発見を書きながら気づいたことが多々あった。例えば、「王」の字は、必ずしも「国家を支配する独裁者を意味したものではない」ということ。紀元前 1600 年ごろ中国に誕生した殷王朝は神権政治。文字は甲骨文字で、その中のジュゴン信仰に関する文字から、「王」が政治を行う際に亀の甲羅に文字を印し、神に伺いを立てていた様子が分かった。

即ち、「王」は政治を行い、同時に宗教上の指導者であった。農事・軍事などの主要な国事は王が主宰して神意を占い、それにもとづいて王が万事を決定したという。だがしかし、「王」の字は単に支配者を表した字か？という、そうは思えない。

文字を素直に見る限り、「王」は「天」の下の理想郷、即ち「一」の下の「土」を表す。大乘仏教的に言えば「浄土」の「土」が「天」の下に存在するのが「王」ということになる。つまり、「王」そのものは理想郷を指すが、しかし、理想郷を平和に維持するには政治宗教上の指導者が必要であり、立派な指導者を立てて初めて「王」の

字が王国を統治する者の意味を持つようになったと考えられる。

では、如何なる宗教でもって政治を行っていたか？それは、「天」の字を見れば一目瞭然であった。「一」の下に「大」があるのが「天」。「大」は、ジュゴン信仰を表す字。即ち、「一」の下の「土」である理想郷「王」は、「一」の下の「大」によってのみ維持できるという人々の願いの込められた字、それが「王」であったことになる。

それでは日本の天皇は「王」か？という、否である。天皇は歴代ジュゴンを祀らずに否定してきた人格。「王」の資格など元々なかったことになる。ばかりか、各国の軍事力を持つ統治者達もジュゴン信仰が宗教であることを理解していないので、現在この世界のどこにも「王」はいないということになる。あらまあ〜。

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC 共同代表）

① わんさか通信 ★ ジュゴンの①

海の女性とハンサム王子 ※

このかわいいジュゴンの写真をネットニュースで見つけ「何なに〜かわいい、本物?!」。

4月にタイの浅瀬に親とはぐれ打ち上げられていた8ヶ月のメスの赤ちゃんの「マリアム」だと、保護局の係員に抱かれている姿がたまらなく可愛いじゃないですか。

しかしこの数日後・・・死んでしまったと新聞に掲載が。

海に帰す度ケガを負い戻ってきていたそうだが、死因は体内に溜まったプラスチックゴミだと・・・人災かよ。このままでは2050年にはゴミが魚の量を上回る予測とか・・・

また7月にも6ヶ月のオスの赤ちゃん「ジャミル」が保護されていたが、マリアムの死後6日目に亡くなってしまったそう。

こちらの死因は消化器に海草が詰まり体調が悪化したこと。哺乳期からミルクを飲む姿が愛らしかったけど、海草も食べられるようになっていたんだね。残念でならない。

(沖縄 小平裕美)

※2頭の名前の意味



沖縄タイムスより

INFORMATION

<首都圏>

- ・10/7 (月) 防衛省前行動 18時半～19時半
主催：辺野古実行委員会
- ・10/12 (土) 大和ピースフェスティバル
@大和駅東側プロムナード (小田急線、相鉄線大和駅)
10:00～15:00
- ・10/20 (日) 団結まつり @亀戸中央公園A地区
11:00～15:00

《 今後のスケジュール 》



<関西>

- ・じゅごん茶話会 9/26 (木)、10/31 (木) 14:00～
@SDCC 関西事務所
- ・10/20 (日) とめよう戦争への道 めざそうアジアの平和 2019
関西の集い @エルシアター13:30～ 開場13:00
- ・11/4 (月) 団結まつり @扇町公園 11:00～16:00
- ・11/16(土)～17(日) 自然史フェスティバル
@大阪市立自然史博物館 9:30～16:30

憲法対談と琉球の音楽

——沖縄の与党と市民共闘から日本を変える——

対談と音楽

高良 鉄美 (参議院議員、憲法学者) ×
海勢頭 豊 (沖縄9条連共同代表、SDCC 共同代表)

日時：10月5日 (土) 17:30 開場 18:00 開演

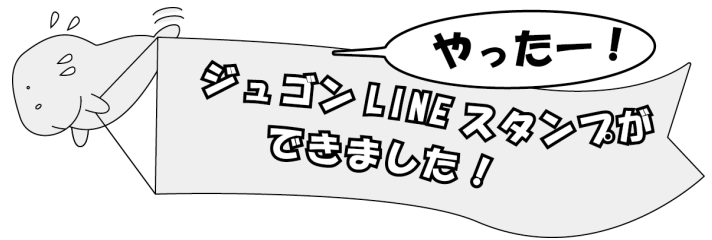
対談 18:00～19:00 音楽 19:30～20:30

会場：TKP 新宿カンファレンスセンター 4A

会費：大人3000円 カップル5000円

主催：沖縄平和サポート

問い合わせ・予約：平田 080-6588-9215 (先着65名)



ついに、ジュゴンのLINEスタンプができました！かわいいジュゴンが挨拶していますよ！ネットというツールを使って、ジュゴンを知らない人たちにアピールできるチャンス！右にあるQRコードから検索してもいいし、「沖縄のジュゴン」でLINEのスタンプショップから検索していただいても大丈夫！一般の検索エンジンではひっかからないのでご注意ください。購入は50コイン（120円）です。よろしくお願いいたします！



対 談

高良 鉄美 × 海勢頭 豊

新参議院議員 憲法学者
シンガーソングライター
沖縄9条連共同代表
ジュゴン保護キャンペーンセンター代表



NEWS ジュゴンBの死因はエイのとげ

環境省などは、ジュゴンBの死因を解剖結果からエイのとげが腹腔内に刺さり腸管が裂傷したことによるものとした。傷だらけだったジュゴンは何を訴えたかったのでしょうか。

防衛省は、辺野古工事の影響ではなかったというでしょう。しかし、大浦湾周辺を餌場にしていたジュゴンA、C2頭は行方不明のままです。SDCCはジュゴンとその貴重な生息域を守るため、引き続き防衛省に工事を即中止し、早急に2頭の生息状況を調査し、保護策を講じることを求めています。

防衛大臣にハガキを送る“OKINAWA ジュゴンを救え！大騒ぎキャンペーン”続行中です！

Editor's Note

「嫌韓」の黒雲が日本社会を覆っている。大手週刊誌が公然とヘイト記事を掲載。しかし「なぜ中国人徴用工の時のように、人権の観点から企業と徴用工が和解する手立てをとれないのか」という記者の質問に菅官房長官は答えられません。『国と国との約束守れ』のオウム返しで植民地化と人権侵害の歴史に蓋をしようとしています。しかし民衆の心に深く刻まれた歴史に蓋はできない。韓国でも、沖縄でも。

(松島洋介)

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.106 2019年9月24日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号 京橋ベース
(旧野口ビル) 302号 TEL/FAX 06-6353-0514

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:
加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター
口座番号 00140-9-660199
他行、コンビニからは：ゆうちょ銀行 ○○八支店
口座番号 普通 8159084

ちゃんぷるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに！